

研究・調査報告書

| | |
|---|---------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 242 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名（原題／訳） | |
| Socio-demographic correlates of alcohol consumption in the Danish general population. デンマーク一般母集団におけるアルコール消費と社会人口統計について | |
| 執筆者 | |
| Bloomfield K, Grittner U, Rasmussen HB, Petersen HC. | |
| 掲載誌（番号又は発行年月日） | |
| Scand J Public Health. 2008 Aug;36(6):580-8. | |
| キーワード | |
| 飲酒、暴飲、デンマーク、飲酒習慣、一般母集団 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： デンマーク人の特徴的な飲酒習慣はあまり研究されていない。本論文はどのような社会人口統計要因がデンマーク人の飲酒量に関係しているか、特に年齢と性別に焦点を当て研究したものである。</p> <p>方法： 2003年にデンマークの一般母集団に行われた政府電話調査、最終的には2,030例であるが、からデータを得た。酒類別の現在飲酒、総飲酒、毎日飲酒、暴飲歴、平均飲酒量、一機会飲酒量、飲酒頻度を分析した。</p> <p>結果： 5%超が飲まない人であった。男性の14%、女性の9%が大量飲酒者、38%の男性と18%の女性に暴飲歴があった。男女とも若年者で大量に飲んでおり、特に暴飲の形態であった。年齢があがると常温以上の温度での飲酒が増えた。多変量解析では年齢、性別、古典的な社会経済的要因以外は飲酒習慣に大きな影響を与えていなかった。女性で社会的要因が特に飲酒に影響していた。</p> <p>結論： 他のヨーロッパ諸国・北アメリカに比して、デンマーク人は飲酒量が多く、暴飲する若者の割合が高い。古典的な社会経済的要因が飲酒習慣に及ぼす影響は他の西洋国に比べ小さかった。飲酒がデンマーク一般母集団にどのような結果をもたらすか研究が進められ明確にされて公衆衛生政策が進められるべきである。</p> | |